

現代コミュニケーションコース

(1年生 : 133 ページから 139 ページ)

2年生 : 140 ページから 149 ページ)

科目名	コミュニケーション入門 I		担当者	河村 真千子	
コース・学年	現コミ・1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>コミュニケーションの基本的な概念を、講義と体験学習を通じて学びます。 コミュニケーションとは、「自分」自身のものの見方や価値観、経験や文化の影響を受けるということ を学び、文化差や多様性の基礎的知識の習得を深めます。同時に、体験学習を通して、多様性状 況における自己の行動を内省し、気づきを深めることを目的とします。</p>				
授業の準備 について	<p>自ら積極的に考えることを基本姿勢とし、授業を進める。 授業資料をファイリングし、毎時間持参をすること。</p>				
授業内容					
1	コミュニケーションを体験する：アイスブレーキングエクササイズ、コミュニケーションの重要性				
2	コミュニケーションとは：コミュニケーションの基本的概念				
3	認知のメカニズム：認知のプロセスと対人コミュニケーションへの影響				
4	認知のメカニズム：ものの見え方と思考				
5	文化：文化とは何か？				
6	ステレオタイプ：差別と偏見 ビデオ「青い目 茶色い目」				
7	言語コミュニケーション：言語コミュニケーションスタイルと方法				
8	非言語コミュニケーション：エクササイズ「私とあなた」				
9	非言語コミュニケーション：非言語コミュニケーションの種類と働き				
10	言語・非言語コミュニケーション：事例と報告				
11	価値観：エクササイズ 「ドナ」				
12	価値観：自己と価値観と文化				
13	コミュニケーション・コンピテンス：対人魅力、人間関係発展のプロセス				
14	コミュニケーション・コンピテンス：自己開示				
15	前期まとめ				
教科書	<p>配布資料を用いる。 (参考図書：宮原哲『入門コミュニケーション論』松柏社 2006年)</p>				
評価方法	出席（積極的授業態度を含む）40%、レポート40%、試験20%				
特記事項	なし				

科目名	コミュニケーション入門 II		担当者	河村 真千子	
コース・学年	現コミ・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>コミュニケーションの基礎的概念を学んだコミュニケーション入門Iにつづき、文化と心の相互作用について理解を深めていく。</p> <p>個人の自己観は経験によって形成されるものであり、文化の影響を受けている。そこで、こうした文化的に異なる自己観が、人の認知・情動・動機づけなどの心理過程に影響を及ぼしているということを、自己を理解することを通して学ぶ。</p>				
授業の準備について	自ら積極的に考えることを基本姿勢とし、授業を進める。日々を通して自分と向き合うこと。				
授業内容					
1	アイスブレイキングエクササイズ、コミュニケーションの重要性				
2	コミュニケーションとは：文化と心の相互作用				
3	文化と自己				
4	人と人の関係性、人と社会の関係性				
5	コミュニケーションと心的プロセス				
6	さまざまな検証				
7	ルールの決定				
8	気づきを深める：語るということ				
9	プロセスマップ作り				
10	発表・課題と問題の設定				
11	問題の共有：必要な能力とは				
12	ものの見方：新たな発見				
13	プレゼンテーション（個人）				
14	プレゼンテーション（個人）				
15	ディブリーフィング				
教科書	適宜配布資料を用いる。				
評価方法	出席（積極的授業態度を含む）40%、プレゼンテーション 30% レポート 30%				
特記事項	既にコミュニケーション入門Iを受講していることが望ましい。主にワークショップ形式をとることによって進めていく。				

科目名	日本語読解基礎			担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・1	必・選	必		期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>韻文・短編小説・論説文・随筆など、あらゆる日本語表現を素材にして、読解力を培います。作品別の魅力を理解するためには、それぞれに応じた読み方を必要とします。知っておくべき知識もあります。それらを身につけたうえで、正確に読む力、そして独自の意見を持って読む力を身につけることを目指しましょう。言葉と厳密に向き合うことで、語彙力をつけることも目標の一つです。</p> <p>美しい日本語表現に出会うことは、自身の表現力を豊かにすることにもつながります。また、作品に心を動かされることによって、柔軟な感性や思考力も養えるでしょう。各回、さまざまな作品に触れ、そこから興味の糸口をつかみ、自発的な読書活動につなげられることも期待しています。</p>					
授業の準備について	辞書の持込みを奨励します。					
授業内容						
1	授業概要の説明					
2	短編小説					
3	短編小説					
4	確認小テスト1					
5	詩					
6	詩					
7	確認小テスト2					
8	短歌・俳句					
9	確認小テスト3					
10	随筆					
11	随筆					
12	確認小テスト4					
13	論説文					
14	論説文					
15	確認小テスト5					
教科書	なし。適宜プリント配布。					
評価方法	小テストの結果50%、各回の取り組み50%					
特記事項						

科目名	日本語コミュニケーション I		担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・1	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>日本語コミュニケーションⅡの準備科目としての小論文基礎講座です。 編入試験等の場で読解を要求される学術的なテーマの小論文を、必要なトレーニングなしに読みこなすのは困難です。ここでは当該レベルの文章を複数読み、型や論旨の分析を重ねます。テーマを見出す、キーワード・キーセンテンスを探す、段落を意識する、といった基本的な作業を身につけることで、確実な読解力を獲得することを目標とします。 読んだ内容を消化したうえで、それに対する自身の考えを持つところまで到達できることを期待しています。</p>				
授業の準備について	渡された資料は、よく読んでくること。				
授業内容					
1	授業概要説明				
2	読解 1 作品① 音読・語句確認・パラグラフごとの要点確認				
3	読解 2 作品① パラグラフごとの要点確認				
4	読解 3 作品① 要旨確認				
5	確認レポート				
6	読解 4 作品② 音読・語句確認・パラグラフごとの要点確認				
7	読解 5 作品② パラグラフごとの要点確認				
8	読解 6 作品② 要旨確認				
9	確認レポート				
10	読解 7 作品③ 音読・語句確認・パラグラフごとの要点確認				
11	読解 8 作品③ パラグラフごとの要点確認				
12	読解 9 作品③ 要旨確認				
13	確認レポート				
14	読解 10 作品④・確認レポート				
15	振り返り・まとめ				
教科書	特になし				
評価方法	確認レポート各回20% 平常点20%				
特記事項					

科目名	メディア概論 I		担当者	牛山 佳菜代	
コース・学年	現コミ・1年	必・選	必	期間・単位数	集中 I 期・2
授業の目標	<p>近年、放送、新聞、出版等の従来のマスメディアに加え、フリーペーパーやデジタルコンテンツ、ケータイ等が加わり、メディアの姿が大きく変わってきています。現代社会は、メディア社会とも言われており、メディアと私たちの関わりは一層深まっています。そこで、私たちの暮らしやビジネスに密接な社会インフラとなっているメディアに関して、その歴史や役割、社会に及ぼす影響について検証し、私たちはこれからどのようにメディアとつきあっていくべきか考えていきます。</p>				
授業の準備について	講義までに教科書を一読しておくことが望ましい。				
授業内容					
1	オリエンテーション：講義方針・各回の内容、自己紹介など				
2	メディアとは何か（1）メディアの概念と形態				
3	メディアとは何か（2）メディアの基本的特徴				
4	メディアの歴史的展開（1）メディア＝媒体へ				
5	メディアの歴史的展開（2）マス・コミュニケーションの成立				
6	メディアの歴史的展開（3）音声メディアと放送メディア				
7	メディアの今日的生成（1）インターネットの生成と展開				
8	メディアの今日的生成（2）ケータイ文化の発展				
9	現代社会におけるメディア（1）国家・メディア・制度				
10	現代社会におけるメディア（2）メディア産業の構造的変化				
11	現代社会におけるメディア（3）デジタルデバイドとは何か				
12	メディアの利用と効果に関する理論（1）社会的機能				
13	メディアの利用と効果に関する理論（2）説得的効果				
14	メディアの利用と効果に関する理論（3）認知的効果				
15	まとめ				
教科書	竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 I』（北樹出版）				
評価方法	受講姿勢及び授業への貢献度（30%）、期末レポート（70%）				
特記事項					

科目名	メディア概論Ⅱ		担当者	牛山 佳菜代	
コース・学年	現コミ・1年	必・選	必	期間・単位数	集中Ⅱ期・2
授業の目標	<p>今日、様々なメディアやそれを用いたコミュニケーションは、私たちの日常生活に欠かせないものとなっています。そこで、この授業を「メディア概論Ⅰ」の発展として位置付け、具体的なテーマ（政治、広告、子ども、女性、噂、スポーツ、グローバリゼーション）のもと、人間の社会的コミュニケーションに用いられる情報メディアと、それを用いたコミュニケーションが文化や社会、そして人々に与える影響について検討していきます。</p>				
授業の準備について	「メディア概論Ⅰ」の内容を復習しておくこと。				
授業内容					
1	オリエンテーション：講義方針・各回の内容、自己紹介など				
2	今日のメディアの特徴（1）メディア・リテラシーの必要性				
3	今日のメディアの特徴（2）メディアと世論形成				
4	今日のメディアの特徴（1）メディアによる地域活性化				
5	政治とメディア（1）				
6	政治とメディア（2）				
7	広告コミュニケーションとメディア（1）				
8	広告コミュニケーションとメディア（2）				
9	子どもとメディア				
10	女性とメディア				
11	噂とゴシップ報道				
12	スポーツとメディア				
13	グローバリゼーションとメディア（1）				
14	グローバリゼーションとメディア（2）				
15	まとめ				
教科書	使用しない				
評価方法	受講姿勢及び授業への貢献度（30%）、期末レポート（70%）				
特記事項					

科目名	異文化間コミュニケーション		担当者	竹中 豊	
コース・学年	1 - 2年	必・選	選	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	この科目を相互理解の学問と位置づけています。今日、私たちは好むと好まざるとにかかわらず、外国文化を含め異なる価値と接触機会を避けては通れません。異質な要素にたいして、私たちはどのように対応し、また、あるべき正しい知的態度とはどういうことなのでしょう。価値の異なる他者と共に生きるためには、どうしたらいいのでしょうか。こうした点につき、具体的事例をとりながら体系的に学んでいきます。相手文化と自文化とを相互に行き来できる知的態度、それをめざします。				
授業の準備について	与えられたテーマについて、予習をしておくこと。				
授業内容					
1	異文化間コミュニケーションとは何か				
2	異文化間コミュニケーションの種類				
3	言語と文化認識のギャップ				
4	事例研究（1）：異文化への対応法をめぐって				
5	非言語コミュニケーション（1）：その種類				
6	非言語コミュニケーション（2）：文化の相違とその重要性の認識				
7	誤解をめぐるコミュニケーション				
8	事例研究（2）：人種問題を考える				
9	コミュニケーションにおける空間距離				
10	カルチャーショック（1）：その背景、現象				
11	カルチャーショック（2）：その克服に向けて				
12	事例研究（3）：異文化間交流における衝突				
13	異文化間コミュニケーションの原則				
14	事例研究（4）：異なる文明間の出会い				
15	まとめ				
教科書	久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2007				
評価方法	レポート 65%、試験 35%				
特記事項					

【2年生】

科目名	プレゼンテーション I		担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・2	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>①考えをわかりやすく明瞭に示せること、②正しい公的な日本語で話せること、③好感度が高く聞き手の興味を引ける発表の力をつけること。この三点を達成目標の中心に据えます。</p> <p>①のためには、発表資料の作成も必要になります。十分な調査・分析の上で、狙いのはっきりした効果的なレジュメを作成する力をつけましょう。</p> <p>②や③のためには、一人対多数(個人発表)、複数対多数(グループ発表)など、さまざまな形式が体験できる場を用意します。相互に評価しあう機会を活かして自分の魅力を伸ばし、また欠点を克服し、プレゼンテーション能力を強化していきましょう。</p>				
授業の準備について	発表の準備を事前にしてくることを求める場合もあります。				
授業内容					
1	授業概要の説明				
2	個人発表① テーマ設定 原稿執筆				
3	個人発表② 発表練習 相互指導				
4	個人発表③ 発表				
5	個人発表④ 発表				
6	グループ発表① テーマ設定 作業計画				
7	グループ発表② 調査開始				
8	グループ発表③ 調査・レジュメ作成				
9	グループ発表④ レジュメ作成・発表手順作成				
10	グループ発表⑤ 発表				
11	グループ発表⑥ 発表				
12	個人発表① テーマ設定 原稿執筆				
13	個人発表② レジュメ作成				
14	個人発表③ 発表				
15	個人発表④ 発表				
教科書	特になし。				
評価方法	発表3回各30%、平常点10%				
特記事項					

科目名	プレゼンテーションⅡ		担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・2	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>現代社会では、進学先でも就職先でも、プレゼンテーション能力は不可欠のものとされていますが、中でもパワーポイントの使用を求められる場合は年々拡大してきています。</p> <p>プレゼンテーションⅠでは、資料としては印刷物のレジュメを用いての発表練習を行います。プレゼンテーションⅡでは、上記のような社会状況をふまえて、パワーポイントを使用しての発表練習を行います。</p> <p>設定テーマについて計画を立て、周到に調査を行ったうえで、それを効果的に見せるためにスライドショーを実施してみましよう。一枚一枚の画面の作り方を工夫し効果的な資料を作れること、画面の動きに合わせての説明に習熟することを目標にしましよう。</p> <p>パワーポイント使用のプレゼンテーションについて、調査・画面作成・ノート作成・発表等のどのプロセスについても、受講者全員が経験者になることを目指します。</p>				
授業の準備について	グループごとの活動になるので、協力して作業に臨む姿勢を忘れないこと。				
授業内容					
1	講義概要				
2	基本的な作業の説明				
3	グループ別作業 テーマ設定・作業計画				
4	調査・資料作成準備①				
5	調査・資料作成準備②				
6	プレ発表 1				
7	プレ発表 2				
8	スライド画面作成 1				
9	スライド画面作成 2				
10	リハーサル 1				
11	リハーサル 2				
12	プレゼンテーション実施 1				
13	プレゼンテーション実施 2				
14	プレゼンテーション実施 3				
15	まとめ				
教科書	なし				
評価方法	準備段階の取り組み 50%、最終発表の仕上がり 50%				
特記事項					

科目名	組織コミュニケーション		担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・2	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>ニュースや新聞で時事を追うだけでは見えてこない「世の中を生きることの難しさ・面白さ」を考える時間にしたいと思います。今回は社会のさまざまな組織において業績を挙げた著名な女性たちの、波乱万丈な実人生を追うことで、若い女性である皆さんが、今後を生きるヒントを得られることを期待しています。困難の乗り越え方、チャンスのつかみ方など、多くの教えが得られるはずです。</p> <p>対象とする人物は、相馬黒光、吉行あぐり、林芙美子、橋田壽賀子、向田邦子、曾野綾子などを考えています。</p> <p>前半は講義、後半は皆さん自身が調べてきた内容を発表する形式をとります。前述したねらいに応えるような、その人物の魅力が十分に伝わる調査内容と発表内容に達することを目標とします。</p>				
授業の準備について	発表の準備に際しては、意欲的に調査・分析等に取り組むこと。				
授業内容					
1	講義概要・趣旨説明				
2	演習方法の説明 1				
3	演習方法の説明 2				
4	講義 1 人物紹介①				
5	講義 2 人物紹介②				
6	講義 3 人物紹介③				
7	講義 4 人物紹介④				
8	演習 1 人物テーマ①				
9	演習 2 人物テーマ②				
10	演習 3 人物テーマ③				
11	演習 4 人物テーマ④				
12	演習 5 人物テーマ⑤				
13	演習 6 人物テーマ⑥				
14	演習 7 人物テーマ⑦				
15	まとめ・ふりかえり				
教科書	なし。適宜プリント配布。				
評価方法	平常の取り組み 50%、発表 50%。				
特記事項					

科目名	パフォーマンス研究		担当者	井上 薫	
コース・学年	現コミ・1-2年	必・選	選択	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に使っている「手話」を学ぶ ・聴覚障害についての基礎知識、文化などについて学ぶ 				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	聴覚障害者の生活について、コミュニケーションの方法について				
2	イメージを身体で表現してみよう				
3	名前を表す手話と指文字を覚えましょう				
4	家族を紹介しましょう 数字を表してみましよう				
5	趣味について話しましょう				
6	仕事について話しましょう				
7	住んでいる所の場所や様々な地名を表わしてみましよう				
8	自己紹介をしましょう（まとめ）				
9	時制の様々な表現をしてみましよう				
10	様々な会話の練習をしてみましよう（1）				
11	様々な会話の練習をしてみましよう（2）				
12	Xマスに関する手話やXマスソングを歌ってみましよう				
13	復習（冬休み明けの為）				
14	手話スピーチ、その他				
15	交流会（今まで習った手話を使ってろう者と話してみましよう）				
教科書	○新手話教室（入門）（社福）全国手話研修センター発行				
評価方法	レポート評価・交流による評価				
特記事項	この授業は、ろう者が講師として、目で見える言葉としての手話に触れていただきます。				

科目名	ディスカッション&ディベート		担当者	小林 美恵子	
コース・学年	現コミ・2	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>私たちをとりまくさまざまな事象について取り上げ、背景や社会的事情などの理解を深めた上で意見を述べ合い、相互に刺激しあいながら自身の考えを確立させていく実習を行います。</p> <p>はじめの目標は、そもそも現在社会で起こっていることを知識として知っていること、それに対して関心を向けていることです。他者と意見交換のできる基盤を整えることで、短大生としてふさわしい社会人基礎力を身につけましょう。</p> <p>設定されたテーマについて実態・現状を把握したら、わかりやすく説得力を持たせて自論を語り、また相手の意見にも耳を傾け、聞き取る力も養います。他者との有意義な意見交換が行え、その上で自身の考えをより明確に持ち、示せる力をつけることを最終的な目標とします。</p>				
授業の準備について	日ごろから新聞をよく読む習慣をつけておきましょう。				
授業内容					
1	授業概要の説明				
2	ディスカッション1 時事テーマ1				
3	ディスカッション2 時事テーマ2				
4	ディスカッション3 時事テーマ3				
5	ディスカッション4 時事テーマ4				
6	4回を終えてのレポート執筆				
7	ディベート1 テーマ1				
8	ディベート2 テーマ2				
9	ディベート3 テーマ3				
10	3回を終えてのレポート執筆				
11	リレースピーチ1				
12	リレースピーチ1-2				
13	リレースピーチ2				
14	リレースピーチ2-2				
15	4回を終えてのレポート執筆				
教科書	なし。適宜プリント配布。				
評価方法	三つのレポート各回20%、意見交換への取り組み40%				
特記事項					

科目名	国際社会学 I		担当者	関根 政美	
コース・学年	現コミ・2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>国際社会学 I（グローバル社会学の試み）の授業では、日本を含めて世界の国々が国際化するという「地球大の社会・文化変動」のなかで生まれてきた新しい学問、「国際社会学」の一端を紹介する予定です。日本のような国民国家が国際化あるいはグローバリゼーションに巻き込まれると、その社会や文化に大きな変化が生じます。その変化とはどのようなもので、私達の生活にどのような影響がでるのかを予測し、対策をあれこれ考えてみようというのが目的です。要するに、グローバリゼーションは私達の生活を楽にするのか苦しめるのかについて考えます。一緒に考えましょう。</p> <p>国際社会学 I では、前半で、①日本を巻き込んで生じている世界大の国境を超えた人々の移動の状況と、②移動はなぜ起きるのか、③なぜ日本に外国人が200万人以上滞在しているのかなどを、少子高齢化＝人口減少の問題に注目しつつ論じたいと思います。後半では、外国人滞在者の増加に伴う日本社会の多文化化に対応するための多文化共生のための多文化主義について、オーストラリアを事例に論じたいと思います。</p>				
授業の準備について	教科書を逐次解説するという方式の儒教ではありません。授業の前にざっと教科書を読んでおいてほしいと思います。それを前提に授業を進めますが、復習をしてください。				
授業内容					
1	授業の内容紹介				
2	社会学から国際社会学へ				
3	グローバリゼーションとは何か				
4	グローバルな人口移動の歴史①——世界の場合				
5	グローバルな人口移動の歴史②——日本の場合				
6	先進諸国・日本の少子高齢化①——少子・高齢化と人口減少				
7	先進諸国・日本の少子高齢化②——人口減少と外国人労働者の定住化				
8	多文化社会オーストラリアの風景				
9	人種・民族・エスニシティとは何か				
10	国民統合政策の歴史とその変遷（人種主義・同化主義・統合主義・多文化主義そして……）				
11	多文化主義の目的・理念——多文化共生と多文化競争				
12	多文化主義の基本的政策——定住支援・文化／言語維持・異文化間相互理解と主流主義				
13	多文化主義の変容——福祉主義的多文化主義から新自由主義的多文化主義へ				
14	多文化主義の可能性と課題——多文化主義のパラドックスと文化本質主義				
15	国際社会学 I の纏め				
教科書	関根政美『多文化主義社会の到来』朝日新聞社、2000年				
評価方法	試験中心（70%）ですが、VTR 視聴毎にレポートを提出（30%）してもらい評価に加えます。試験を受けないと成績はつきません。				
特記事項	学生へのメッセージ：質問はいつでも歓迎。出欠管理はきちんとやります。適宜、VTR(NHK/BBCドキュメントなど)を見ます。授業は休まないように。				

科目名	現代社会とメディア I		担当者	今泉 哲雄	
コース・学年	現コミ・2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>新聞を読んで世の中の動きを知る、それが目標です。 キーワードは「情報」。それも、うわさや中傷、デマやゴシップではない「確かな情報」にどうしたらたどりつけるかを、新聞を通して学びます。 どんな情報が載っているか、記者は情報をどう見分けるか、それをどう伝えているか、書かれていないことは何か——新聞の裏側を垣間見る講義です。平行して、実際に記事を書く・見出しを作る体験もします。 テレビやインターネットにはない活字情報を道具として、ニュースの向こう側にある社会の出来事を読み解く技術を磨きます。それが、テレビやインターネットの情報を効果的に使いこなすことにもつながります。</p>				
授業の準備について	受講すると決めた日から、毎日欠かさず新聞を読むこと。				
授業内容					
1	総合リード：「マスコミについて」アンケートと質疑				
2	新聞とTV：メディアの特性比較				
3	新聞の文章：記事表現の特徴				
4	取材の現場：確かな情報にたどりつく取材				
5	情報の流れ：取材から読者の手に届くまで				
6	情報源とは：記事から読み取るニュース・ソース				
7	でっち上げ：誤報・虚報・捏造・剽窃				
8	報道と人権：メディア・スクラム				
9	見出し表現：的確な言葉選び				
10	記事の提稿：見出しつき完全原稿				
11	新聞の社論：社説読み比べ				
12	世論の動き：世論調査と選挙報道				
13	テスト				
14	電子新聞：紙の新聞・ハイブリッド新聞				
15	まとめ：メディアの効果的な使い分け				
教科書					
評価方法	レポート 50%、記事作成 25%、テスト 25%				
特記事項					

科目名	現代社会とメディアⅡ		担当者	定村 武士	
コース・学年	現コミ・2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>デジタルの時代になって、映像情報は、益々、さまざまに形を変えて私たちの前に現れています。その『映像』は、情報を伝えるメディアとしては、極めて大きな威力を発揮しています。と同時に、危険な側面も併せ持っています。それは、映像は、作る人が居て見る人が居るという宿命的な関係があるからです。しかも、映像は、作る人によって四角いフレームに切り取って提供されるという現実もあります。このことを、この講座の後半の「実習」の中で、肌で感じ取ってもらいたいと考えています。また、「実習」では、「映像とは何か」ということを掴んでもらうと共に、作品制作の中での、“スタッフワーク”の大切さも学んで欲しいと願っています。</p>				
授業の準備について	<p>菅谷明子著「メディア・リテラシー」(岩波新書)の、“はじめに”と、“序章、世界に広まるメディア・リテラシー”の項に、目を通しておいてください。今日の映像メディアの実情に、関心を持ってもらえんと思います。</p>				
授業内容					
1	「映像」とは、何か				
2	「映像」は、真実を伝えているか				
3	「ドキュメンタリー」と「ドラマ」の関連について				
4	ドキュメンタリーに於ける、“やらせ”の問題				
5	サイエンスドキュメンタリーの中にもドラマはある				
6	映像作品の中で、最も大切なものは「テーマ」である				
7	映像制作の中での、“創像力”と“チャレンジ精神”				
8	映像を作る技術と、伝える技術				
9	(実習) テーマの設定と、スタッフ構成				
10	(実習) シナリオはどう作るか				
11	(実習) 画コンテ作りと、ロケハン(分業の大切さ)				
12	(実習) ロケーション				
13	(実習) 編集(パソコン編集)				
14	完成作品の試写と反省会				
15	映像メディアの未来を考える				
教科書					
評価方法	出席 20%、 小レポート 10%、 最終レポート 30%、 実習態度 40%				
特記事項	なし				

科目名	社会心理学		担当者	勝谷 紀子	
コース・学年	現コミ・2年	必・選	必	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>わたしたちは、初めて会った人にも「明るそうな人」などと何かしらの印象をいざくことができる。人を好きになったり、助けたりすることもある。グループで話し合いをして意見がうまくまとまる場合もあれば、そうでない場合もある。さらに、ある文化に暮らす人と別の文化に暮らす人では、考え方や行動が異なる場合があるかもしれない。</p> <p>社会心理学は、このような他者に関する情報の処理、他者との関わり、集団における対人行動、文化と人との関わりなどを扱う学問である。授業では、社会心理学の基本的な知識を身につけることを目的とする。</p>				
授業の準備について	事前の予習は特に必要ありません。社会心理学を初めて学ぶ人向けの内容にする予定です。				
授業内容					
1	オリエンテーション:社会心理学とは				
2	対人認知				
3	ステレオタイプ				
4	態度				
5	自己				
6	コミュニケーション				
7	対人魅力・親密な関係				
8	援助行動				
9	攻撃行動				
10	集団の心理				
11	精神的健康				
12	メディアと対人行動				
13	文化と対人行動				
14	これまでのおさらい				
15	期末テスト				
教科書					
評価方法	出席（20%）、小課題（30%）、期末テスト（50%）で総合的に評価する。				
特記事項	履修を希望する学生は、初回のオリエンテーションには必ず出席してください。授業内容や成績評価についてくわしく説明します。				

科目名	異文化間コミュニケーション		担当者	竹中 豊	
コース・学年	現コミ・2年	必・選	必	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>この科目を相互理解の学問と位置づけています。今日、私たちは好むと好まざるとにかかわらず、外国文化を含め異なる価値と接触機会を避けては通れません。異質な要素にたいして、私たちはどのように対応し、また、あるべき正しい知的態度とはどういうことなのでしょう。価値の異なる他者と共に生きるためには、どうしたらいいのでしょうか。こうした点につき、具体的事例をとりながら体系的に学んでいきます。相手文化と自文化とを相互に行き来できる知的態度、それをめざします。</p>				
授業の準備について	与えられたテーマについて、予習をしておくこと。				
授業内容					
1	異文化間コミュニケーションとは何か				
2	異文化間コミュニケーションの種類				
3	言語と文化認識のギャップ				
4	事例研究（1）：異文化への対応法をめぐって				
5	非言語コミュニケーション（1）：その種類				
6	非言語コミュニケーション（2）：文化の相違とその重要性の認識				
7	誤解をめぐるコミュニケーション				
8	事例研究（2）：人種問題を考える				
9	コミュニケーションにおける空間距離				
10	カルチャーショック（1）：その背景、現象				
11	カルチャーショック（2）：その克服に向けて				
12	事例研究（3）：異文化間交流における衝突				
13	異文化間コミュニケーションの原則				
14	事例研究（4）：異なる文明間の出会い				
15	まとめ				
教科書	久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2007				
評価方法	レポート 65%、試験 35%				
特記事項					